

第 18 回支援連絡調整会議 議事録

日 時：2014 年 11 月 11 日(火) 10:00~12:00
場 所：横田地区コミュニティセンター
出席者：19 団体 31 名（内オブザーバー2 団体 5 名）
進行：酒井（事務局）
文責：三浦（事務局）

1. 事務局連絡 （10:00~10:05）

➤ 地域企画「まちあるき」実施報告

10/4 日（土）、今年度第一弾の「まちあるき」を矢作町で実施した。矢作、下矢作、生出を対象地区に、全 5 グループにわかれて、それぞれに住民を講師に迎えて実施した。参加 13 名。ボランティアや支援で関わりを持っていた大学生が多かった。本日の参加団体にも、参加者として、また運営側のサポートとしてご協力いただいた。詳細はポータルサイトに実施報告を掲載しているので、ぜひご覧いただきたい。

次回以降については、時期を見て実施を考える予定。

➤ 会議中止判断について

支援連絡調整会議は、毎月三週目の火曜日に設定。先月の台風 19 号接近に伴う中止判断を受けて、運営委員会にて自然災害等の際の会議の中止判断について検討を実施。検討結果は以下の通り。不明点があれば事務局までお知らせいただきたい。

- ・ 会議の中止判断は、前日 17 時までに行い、以後中止の連絡を参加者へ行う。遠方からの参加者には電話連絡。
- ・ 判断とその後の連絡を間違いなく行うため、前日が祝日の場合は開催を一週後ろに倒す。今年度内で該当するのは 1 月。1 月は一週ずらして、1/20 日に開催する。

➤ 平成 26 年度下半期に向けて

まちづくりプラットフォームは、毎月の支援連絡調整会議の他に、親会である運営委員会を隔月で開催している。毎月の支援連絡調整会議の報告をしているが、グループ議論を進めていく中で、組み立てを再考すべきではとの議論がなされた。上半期の終了を受けて、参加の皆さんにもこの場をどうしていきたいか、どうすればより良いものとなるのか意見をいただきたい。（2 部で実施）

2. 活動報告（全体）（10：10～10：50）

- ・ 前回の会議からの 11 月までの活動報告、イベント情報の共有
- ・ 質問あれば適宜。各団体 2 分程度で報告

※以下発表順、発表者敬称略に記載

※発表の順番は第 18 回支援連絡調整会議参加者名簿に準ずる。番号は名簿の番号を記載

1～6	陸前高田市仮設住宅連絡会／井上	近況として、「交流会のすすめ」「明日への一步」「連絡会通信第14号」、「連絡会通信第15号」を発行。「交流会のすすめ」は、住民主体の交流ができるようにと冊子にまとめた。「明日への一步」は、公営住宅や自立再建で少しずつ退去者が出る中で、心の支援ができるようにと資料を作成した。中間支援、自治会サポート、コミュニティの新生・再生サポートの三本を柱に活動を継続している。
7	陸前たがだ八起プロジェクト／蒲生	モビリアを中心とした仮設住宅を、震災直後から支援している。長屋式(60戸)はコミュニティがつくりやすかったが、戸建て式(108戸)は難しかった。現在に至るまで、お茶っこなどのサロンで自立支援、男性向け麻雀サークル等を通したコミュニティづくりを働きかけていて、今後も継続して活動していく予定。高台移転や自立再建者が増えてきていて、モビリアも168戸中20戸程度空きが出ている様子。引き続き注視したい。
8	ジャパン・プラットフォーム／高久	震災復興支援を行っているNPO等の法人格を持つ団体へ、資金助成プログラム「共に生きるファンド」を実施。18次募集は、全体で36件の応募、採択7件(うち岩手県の採択は0)。19次の募集は11/13日締切。重点項目は4つ。①被災者の移動が進まない仮設住宅・みなし住宅への支援、②行政の支援が届きにくい社会的弱者への支援とそれを支える地域社会づくり、③行政の支援制度が整備されていない生業・経済復興支援、④支援者・支援団体を繋ぐ連携調整(中間支援)。重点項目であるだけなので、他の活動でも申請は構わない。
9	いわて連携復興センター／葛尾	10/30日に盛岡で、災害時の避難所運営支援に関わるボランティア研修会を実施。参加者およそ60名。静岡で開発されたHUGゲームという災害時ボランティアセンター運営ゲームを実施した。11/5日(釜石)、6日(大船渡)に高知市民会議理事長東森氏を招いて、寄附付き商品や地域の中でのNPOの役割などのセミナーを実施。寄附付き商品の事例の紹介等を行った。
10	いわて三陸復興のかけ橋プロジェクト／鈴木	11/18日(大船渡カメラホール)、19日(米崎コミセン)と弥生会計協力の運用セミナーを実施する。弥生会計のソフトの使い方の講習。使い方のわからない方はまだ受け付けている。詳細は弥生会計、又はかけ橋のホームページを参照。他情報として、備品が足りないなどの話を頂いている。仮設住宅や公営住宅で使うもの、団体の備品等。確実に支援できる保証はないが、困っている団体がいればお声がけいただきたい。
11	高田大隅つどいの丘商店街／山本	11/2日、F-1グルメ大会が福島県相馬で開催された。岩手・宮城・福島三県の仮設商店街から16チームが参加。相馬大会では約6,000人集客。福島で行う食べ物のイベントでこれだけの人が集まることはなく、地元の方々は大変喜んでいて。次回は1月に大槌で開催予定。自主事業で中越地震の被災地訪問を10月に実施。報告会を12月中旬につどいの丘商店街で実施予定。詳細が決まったら連絡させていただく。

12～ 13	NEC ネットエスアイ／池田	ひまわりハウスは今月で二周年。二周年イベントではイモ煮ふるまいやコワーキングを実施。今後も無料の集会所機能の提供と、イベントとしては NEC グループでクレイアニメづくりに取り組んでおり、小中学生向けの小規模なものを、12 月にひまわりハウスで実施予定。イベントや分科会等、小さな集まりの拠点として使ってもらえるよう告知していきたい。
14～ 15	大船渡地域振興センター／高橋	大船渡合庁に被災者相談支援センターを常設、相談に対応している。毎週木曜日に被災者支援室に出張相談を実施。9 月 10 月は、9/28 日に市役所、長部コミセンで住宅再建相談会開催。30 人を超える参加があった。10/26 日は市役所と小泉公民館で開催。11 人 7 組の相談があった。11 月は相談会お休み、次回は 12/7 日に開催する。従来の相談に加えてファイナンシャルプランナーの無料相談も。詳細は別にお知らせをさせていただく。11/14 日(金)に「復興の現場見学会」を開催する。40 名の応募。まだ迷っている住民の方にも参加いただければと思うので、人数調整しながらやりたい。
16	岩手大学／佐々木	20 の班が復興のために活動している。心のケア班では、9 月 10 月は「あいまいな喪失(まだ遺体が発見されていないケース)」と普通の喪失が違うこと、複雑な喪失等の研修を実施。独自の活動として、心のケア班で市民講座を立ち上げ、月 1 回いろいろな講座を実施予定。子どもたちの心のケアをどのようにしているか、トラウマと喪失の話を混ぜながら、子どもたちへのサポートの話をしたい。他、傾聴やリラクゼーション等。研修ニーズがあればプログラムの提案もできる。先日も看護師向けにリソースを引き出す話の仕方、質問の仕方の研修を行った。会場が釜石と遠いが、周知いただければ幸い。
17	いわて生活協同組合／池田	陸前高田市では、ふれあいサロンなどの活動を継続している。今日は署名のお願いを配布した。東北 6 県の生協で、被災者生活再建支援制度の拡充への 100 万筆署名活動を実施している。現行の法律だと最大 300 万円の支援が受けられるが、資材の高騰等あり、500 万円まで上げるため活動している。今後の災害に向けてということで取り組んでいるので、ご協力をよろしくお願いいたします。団体として取り組みたい方がいれば用紙を持ってきたので、ご協力をお願いしたい。
18	教育支援チーム「まつ」／佐々木	市内の被災小中学校の支援、子どもたちの長期的な見守り活動、先生方のための居場所づくり、今年から学校に行きにくい子どもたちのためのフリースペース等で活動。教育委員会が保管していた救援物資のリストを当団体で作成、8 月までに各校への配布、9 月、10 月は学校を通して父母への配布、10/31 日には陸前高田市に来ている子育て支援団体への配布を行い、終了となっている。ご協力いただき感謝。
19	かながわ 311 ネットワーク／石田	基本的には神奈川で活動、ボランティアバスは気仙沼へ派遣。11/30 日に陸前高田で活動している神奈川大、NPO 法人ハマトラ横浜フットボールネットワークとの三者共催で、大学生・高校生で被災地での活動をしている若者合同の活動報告会を開催する。3 回目になるが、6 団体が発表する。今回は岩手・宮城・福島三県で活動している団体を集めることができたので、幅広く話が聴けると思う。後半は参加者が大学生と一緒に、グループワークで防災かるたを作り、50 音揃えるところまでを予定。また、NPO 法人ハマトラ横浜フットボールネットワークでは、今週末に横田でフットボール教室を実施予定。

20	難民支援協会／石井	今すぐに発表できる催しはないが、来年に向けて、東京から何を発信できるかを模索しており、今日は勉強しに来た。
21～ 22	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ／平瀬	震災直後から教育・子どもの保護・子どもにやさしい地域づくりの三本の柱で活動を展開。陸前高田では農業、水産高校への奨学金支援、学童指導員向けの研修と支援、学童保育へ通う子どもたちへの遠足支援、子どもまちづくりクラブの活動を実施。9月、10月は、市で建設予定の図書館に子供の意見を取り入れてもらうべく、意見書の作成と、県内のユニークな特徴を持つ図書館の見学を実施。
23	もっちいと森の仲間たち&いわて 結っこ花巻／望月	小友保育園、広田保育園、ヤルキタウン、森の前等で活動。仮設住宅集会所では干し柿づくりなどを行っている。大船渡、大槌でも活動中。花巻市内に 480 名の避難者がいるが、その中で一人暮らしの方、または日中一人暮らしの方のところに、気がかり世帯サポート(花巻市・社協等)というチームで孤独死がないように活動している。これからはクリスマス会、ボウリング大会、忘年会等を予定。他、11/30 日に「復興からその先へ」をテーマに、前復興大臣政務官坂井学氏、三陸鉄道社長と、これから何ができるのかをみんなで考える座談会を開催する。先週は被ばくツアーと題して 6 号線を南下、檜葉や南相馬を回った。いろいろ企画していきたい。以前まちづくりプラットフォームの参加者に呼びかけて二又復興交流センターで交流会をやったが、また企画していきたい。
24	P@CT／乗久保	二又復興交流センターでの交流会、ぜひ今年もやっていただければと思う。P@CT の主たる事業は、みちくさルームを中心とした子ども支援、ボランティア受け入れ・マッチングを中心とした陸前高田市復興サポートステーション運営、交流人口拡大を目的とした二又復興交流センター運営事業。子ども支援チームでは、11/22 日に TTT と一緒に「ボールであそぼ。」イベントを行う。復興サポートステーションでは、引き続きボランティアの受け入れをしているが、次年度の事業継続を目的に、現在クラウドファンディングに挑戦中。ご協力いただける方がいればよろしくお願いいたします。二又復興交流センターでは、年内にかけて富士通の新入社員研修の受け入れ拠点となっている。一般の宿泊以外の用途でもお使いいただけるので、機会があればよろしく。
25	陸前高田まちづくり協働センター ／黄川田	人と人をつなぐことを目的に、中間支援として情報の収集・発信、相談業務などを実施している。詳しくはスタッフまで。講座のご案内をさせていただいていたが、おかげさまで全 4 回無事終了。今後も継続していきたいと思うので、活動中に住民のニーズを拾ったら、センターに教えてもらえるとありがたい。

27～ オブザーバー	全国各地で団地の賃貸、駅周辺の都市再生等まちづくりに取り組んでいる。被災地に面整備や災害公営住宅の建設でお
28 UR 都市機構／菅沼	手伝いに入っている。陸前高田市では9月末に下和野団地が完成。市に引き渡し、住民の入居が始まっていると聞いている。水上地区の建設を進めており、12月に引き渡しを行う予定で工事を進めている。大野、田端でも進めている。URでは面整備や災害公営住宅の整備に全力をつくしてきたが、そろそろソフト支援という視点を大事にしていきたいという社内の動きがあり、住宅を渡した後の生活でも快適に心地よいまちの中で住んでいただきたいという思いから、今日の会議に出席。具体的などころまではまだ行き着いていないが、市内でどういう活動があり、どういう団体がいるのかを知り、URのことも知っていただき、協力できることがあればお声がけいただきたい。
29～ オブザーバー	この場と別に毎月実施の支援団体とのミーティングにて、支援連絡調整会議のことは聞いていたが、実際にどういう内容
31 陸前高田市被災者支援室／佐々木	で、どういう団体がいて、どんな活動をしているのか知りたいと思い参加。活動は、主に補助金等の支援や相談。今月に「被災者生活再建ガイドブック」が完成。今週水曜日の区長文書で配布予定。数に限りはあるが残部数があるので、必要な団体があれば、声がけいただきたい。

3. 意見交換・現状の活動などの抽出/共有(テーブル議論)

<1G:地域・コミュニティ>

➤意見交換

- ・ 各参加者の参加姿勢を共有。この場に期待しているのは現地の情報と、活動をするためのパイプ・連携、住民に還元できる情報など。
- ・ 情報交換→課題抽出→掘り下げは可能。掘り下げた後のアクションについては、実施主体が限られるため負荷が予想される。どこまでやれるのか。
- ・ 参加者で議論していけることの提案:シーン毎のケース検討と、やれる団体の整理。
- ・ 災害公営住宅移行期に向けた取り組みをケースに設定し、必要な取り組み、対応できる団体の整理等を次回実施予定。

<2G:子ども・教育/子育て・女性>

➤意見交換

- ・ 参加姿勢、何を求めて参加しているのか?この場で何ができるのか?について意見交換。
- ・ それぞれの活動分野で特化して活動していくために、この場に求めるものとして、みんながやっているものに乗る等、お互いに言い合える場になるといい。
- ・ 子どもの話や地域の変化、今後の対応など、今後の活動につなげていけたら。
- ・ この場への地域の人への参加を望んでいるが、難しいからこそ、その部分の突破口を見つけていきたい。そのために、グループの代表者が地域に入って、状況を聞いてくるなどできたらいいのではないか。

<3G:商工・観光・産業>

➤意見交換

- ・ 参加の姿勢:参加団体のつながりの場という認識で共通。
- ・ 商工、産業、観光というテーマでワーキンググループにもつながっているので、いい流れになっている。参加にあたり1団体の課題がみんなの課題として共有されている。
- ・ 今後の展望は、テーマに対してたわいのない会話からアイデアを出して、実現へというところを考えていきたい。誰がやってもいいので、提案できるようにしたい。
- ・ アイデア出しには多様な人が必要なので、参加を促していきたい。

4. その他

➤ NPO 法人ハマトラ横浜フットボールネットワークよりイベントの告知

- ・ 11月15日(土)、横田でフットサル交流会を開催する。対象は横田小・中学生。
- ・ 11月30日(日)、神奈川で被災地へのボランティアに参加した大学生や若者の「かながわ発U-22被災地行ってきました。」と題した報告会を開催する。

【次回の開催日程】

- ・ 第 19 回支援連絡調整会議

12 月 16 日(火)10:00～12:00 ※会場及び詳細は別途連絡